



## アシュートにおける発見：古代エジプトのイディの墓室

2024年8月18日から9月17日まで、ベルリン自由大学エジプト学研究所の第18回現地調査が、中エジプトのアシュート市に所在するネクロポリス、ゲベル・アシュート・アルガルビ遺跡にて実施されました。フィールド調査は、Jochem Kahl教授(ベルリン自由大学)の指揮の下、国際共同調査としてソハーグ大学(エジプト：Mohamed Abdelrahim教授)、金沢大学(日本：北川千織)、ポーランド科学アカデミー(ポーランド：Teodozja Rzeuska教授)の協力の元に行われました。

今年の調査では3箇所での遺構調査が行われましたが、そのうちのひとつである州侯ジェフェイ・ハピ1世の墓のクリーニングと記録作業が継続されました。紀元前1880年頃に建てられたこの墓は、岩を切り出して作られた壮大な建築様式が特徴的です。高さ11m、奥行き最大28m、幅70mの部屋が岩に彫り込まれ、壁画や碑文で装飾されています。ジェフェイ・ハピ1世は古代において神格化され、彼の墓は2000年以上にわたって古代エジプトの文化的記憶の不可欠な要素でした。

ジェフェイ・ハピ1世は2度結婚しました。20年間にわたるこの墓のフィールド調査を経て、国際調査チームはこの夏に州侯の一人娘であるイディの墓室を発見しました。イディはハトホル女神の司祭であり、「Lady of the House」の称号を持っていました。これは、彼女が富裕層出身であったことを示しています。イディの埋葬場所は、以前研究者らには見過ごされていましたが、ジェフェイ・ハピ1世の墓内に作られた深さ約14mのシャフト(竪坑)の側室にありました。このシャフトのクリーニングは2022年から開始され、3シーズン(2022年、2023年、2024年)にわたる現地調査を経て、多数の副葬品とともに二重木棺に納められたイディの墓室が発見されました。イディの埋葬は古代にすでに略奪され、宝飾品や金属製品が持ち去られていましたが、その他の副葬品は古代の略奪者たちの興味を引かなかったようです。この古代の略奪後、墓室とイディは忘れ去られてしまったようです。

この発見は、学問的にも芸術的にも大変貴重なものです。木棺は外国産木材でできており、ひとつの木棺あたり約200~300kgの重量があり、平均よりも大きめの2.62m x 2.03mのサイズです。木棺は、死後の世界を題材とした素晴らしい絵や文字で完全に装飾されています。イディの木棺とその装飾は、その製作技術において同時代の品々を凌駕しており、父であるジェフェイ・ハピ1世の墓に描かれたテキストや壁画の卓越した品質と見事に調和しています。特に、宗教テキスト(いわゆる「コフィン・テキスト」)、供物リスト、肩書きなど、テキストの豊富さにより、古代エジプトにおける女性の地位や知の伝達について、新たに広範囲にわたる知見を導くことが可能になるでしょう。装飾画には埋葬儀礼の一部であった物品が描かれています。

その他の副葬品、例えば像、短剣、権力を象徴するもの、食料供物など、死者への供物として捧げられたものとして分類できるものは、埋葬儀礼のより深い理解に役立ちます。さらに、ミイラ化の過程でイディの肝臓、脾臓、肺、腸などの内臓を取り出したカノプス壺が納められた木箱も発見されました。古代の略奪者たちによって引き裂かれたイディのローブの残骸と攪乱された人骨は、今後彼女の人物像についての情報も提供するでしょう。初期段階の観察によると、イディは40歳前後で、足に疾患を抱えていたとみられています。

墓室の木製遺物が初期の保存処理を受け、慎重に14メートルの深さの狭いシャフトから回収された後、出土品はエジプトの考古省に引き渡されます。

原文：2024年10月4日、Jochem Kahl教授執筆

日本語訳責：北川千織

上記に関する画像および原文はこちらのリンクからご覧になることができます。

<https://www.geschkult.fu-berlin.de/e/aegyptologie/aktuelles/Grab-der-Idy.html>

アシュート・プロジェクトの最新情報は以下のQRコードをご覧ください。



**THEASYUTPROJECT**